

令和４年度第４回大和市社会教育委員会議定例会（第３２期） 会議録

会議名（審議会等の名称）		令和４年度第４回大和市社会教育委員会議定例会（第３２期）
開催日時		令和５年２月１７日（金曜日）午後３時００分～午後５時００分
開催場所		文化創造拠点シリウス６階 生涯学習センター６０１講習室
出席状況	委員	１０人：伊藤（仁）委員、大川委員、大澤委員、小森委員、齋藤（正）委員、齋藤（道）委員、中山委員、箱崎委員、長谷部委員、丸田委員
	関係各課	２人：図書・学び交流課長、こども・青少年課長
	事務局	２人：文化スポーツ部図書・学び交流課学び交流係長、同係員１人 学び交流係（２５９－６１０４）
	傍聴人数	０人
公開・非公開の状況		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
非公開・一部非公開の場合はその理由		
審議又は検討経過及び結果		<p>１ 会議次第</p> <p>１ 報告事項</p> <p>１）令和４年度社会教育委員に関する研修会等について</p> <p>２ 協議事項</p> <p>１）家庭教育支援について</p> <p>３ その他</p> <p>２ 審議及び結果</p> <p>主な内容は次のとおり</p> <p><開会></p> <p><事務局から配布資料の確認></p> <p><議長挨拶></p> <p><報告事項></p> <p>１ 報告事項</p> <p>１）令和４年度社会教育委員に関する研修会等について</p> <p><委員より、これまでの研修会等の報告事項></p> <p>○知ることからはじめる人権啓発研修講座</p> <p>（委 員）視覚障がいをお持ちの成澤俊輔さんの講演を聞いた。「世界で一番明るい視覚障がい者」というキャッチコピーで活動していて、様々な企業のアドバイザーとしてビジネスのチャンスなどについて提案している。講師は物事をポジティブに捉えることができ、非常にチャレンジャーで、派手な服装や髪形の方で、とても視覚障がいがあるようには見えなかった。自分も何かやってみようという勇気もらった。</p> <p>○神奈川県公民館連絡協議会第６４回県公民館大会</p> <p>（委 員）冒頭の本村賢太郎相模原市長の挨拶が素晴らしかった。青山学院大学教授の鈴木眞理教授の講演を聞いた。その後、鈴木教授がパネラーとして、市内３公民館の館長とパネルディスカッションを行った。</p>

(委員) 鈴木氏は自分と生まれ年が一緒だったので、話の内容に親近感がわいた。とてもユニークな方で、面白い講演だった。社会教育と生涯学習の違いについて説明されており、生涯学習を支援するのが社会教育であると、自分なりに理解した。

○県社会教育委員連絡協議会地区研究会（箱根町会場）

(地区研に出席した伊藤(能)委員が欠席のため、報告書を事務局が代読)
当日の主な流れは、アトラクション、講話、事例報告である。アトラクションは、重要無形民俗文化財にも指定された「湯立獅子舞」であり重厚な演舞であった。講話はスクールソーシャルワーカー瀧本先生であった。虐待、ヤングケアラー、貧困等、児童・生徒の置かれている状況には厳しい一面もある。社会教育委員の役割を再認識することとなった。事例報告では、「子ども」「大人」「地域」としての社会活動が掘り下げて報告されていた。ここでも、社会教育委員の役割を考えさせられた。全体として、大変内容の深い、地区研究会であった。

○神奈川県社会教育委員連絡協議会第3回理事会

(委員) 来年度の県社会教育委員連絡協議会総会は、令和5年6月12日13時30分から、かながわ県民センター2階ホールで行うことが報告された。また、神奈川県の順番が3年後に迫っている関東甲信越社会教育委員大会について、これから準備を進めていくという話があった。そのことについて、総会で提案があると思う。

2 協議事項

1) 家庭教育支援について

<事務局より資料2-1について説明>

(市) 前回11月の定例会で委員の皆様にご意見等を反映し、提言書(素案)を事務局にて修正させていただいた。事務局より修正箇所について説明する。

(議長) 修正点について、ご意見はあるか。

(市) ご意見が無いようなので、続けてご説明する。資料2-2をご覧ください。この、「神奈川県におけるこれからの家庭教育支援のあり方について(答申)」は、神奈川県生涯学習審議会が、国の示す基本的な方向性を踏まえながら、地域全体で家庭教育を支援する基本的な考え方や、家庭教育支援と子育て支援の関わり、の整理、行政や地域が家庭を支える仕組み等について審議した結果を取りまとめたものである。内容については、第1章「家庭教育の現状」、第2章「家庭教育に係る課題」、第3章「提言」で構成されている。提言の参考として配布させていただく。

(この後、答申の概要について事務局より説明)

(議長) 県の答申を参考にしながらご提案をいただきたい。

「1はじめに」についてご意見はあるか。

(議長) 9行目、13行目に「また」が2回出てくる。くどいのでどちらかを別の表現にした方がよい。15行目の「大和市」は削除してよい。

(市) 23行目について、全ての子どもにとって家が居場所ではなくな

ってきているようにも読めるため、表現を変えた方がよいのではないか。

(議長)「2 地域で子どもを育てるための社会基盤と社会教育の役割」についてご意見はあるか。

(委員)「学校」について、主語が無い。教師を入れた方がよいのでは。

(委員)教師は保護者対応や生徒指導もあり、教材研究の時間の確保が難しい。最近の子どもは、ネットを通じて繋がっていて、SNSでの悪口、誹謗中傷などが問題になっている。人間関係を対面で築くことに慣れていない子が増えているように思われる。

(委員)同じクラスで仲が良かった子でも、クラスが変わると友達ではなくなってしまうというケースも多いようだ。それでは人間関係が広がっていかない。そのようなことについても、地域で支えていく必要があるのではないか。

(委員)本来家庭で教えるべきことを学校に任せてしまっているということも問題である。

(委員)外国籍の思春期の子は、家でも日本語を話すようになるが、親は外国語しか話せないという問題もある。

(委員)「地域」について、「メンバー」という表現が分かりにくい。

(委員)「地域で活動するメンバー」に変えればよいのではないか。

(委員)「地域」のみ、体言止めになっているので、「～している。」という表現に変えた方がよい。地域社会におけるコミュニティ意識の変化とは、具体的にどういうことが考えられるか。

(市)自治会加入率が下がりごみ出しのルールが守られない、昔は直接又は電話で連絡していたことが現代ではメールやSNSに置き換わっているなどの変化だと考えている。

(委員)やはりスマホの普及による変化は大きいと考えられる。

(委員)子ども会にイベントのチラシを配ろうとしても、スマホでチラシの写真を撮ってLINEで周知するので、数枚もらえればいいと言われることがある。

(委員)子どもの遊び方が変化してきている。近所のお兄さんお姉さんと一緒に遊ぶのではなく、画面に向かって個々で遊ぶ子が増えている。地域の繋がりが希薄になってきている。

(委員)地域には多くの団体があり、様々な活動をしているが、団体間の交流はあまり無い。別の団体とイベントの日が重なるときは、子どもの取り合いになることもある。もっと団体間の交流があるとよいのではないか。

(議長)「地域」に、団体同士の連携についての内容を追加する。

(委員)繋がりが薄くなってきているのは、個人情報保護の流れも大きい。

(委員)私が子どものころは、ガキ大将を中心とした縦社会があった。その頃は子ども達の中に福祉の心があり、仲間に入れてもらっていた。現代は、スマホやパソコンなど、機械を通してコミュニケーションを取っているため、本当の交流ができないのではないか。福祉の心が育まれないのではないか。そこをうまく表現できればよいのではないかと思う。

(議長)集まって遊んでいても、スマホ等でゲームをしているのでは、た

だ集まっているだけで、個々で遊んでいるのと変わらないと思う。追加するのであれば、「地域」の中ではないか。

(委員) 勉強が主体で、遊ぶ時間が無い子もいる。

(議長) それぞれの家庭の方針もあると思うが、多くの子どもは遊びたいと思っているのではないか。子ども本来の姿を親に伝え、親子で仲良くコミュニケーションを取れるようにしていくというのが家庭教育支援だと考えている。

「地域」の下のまとめについてご意見はあるか。

(委員) 3行目に「深化」とあるが、「緊密化」の方が分かりやすいのではないか。

(議長) 続いて「3 大和市の親育て・子育て施策の現状と課題」について、ご意見はあるか。

(委員) 「現状」の2つ目について、「親の関心の度合い」とあるが、「親の関心の方向性」の方がよいのではないか。

(市) ここで記載しているイメージは関心の高い低いである。「大和市中ども・子育て支援事業計画」を見ると、乳幼児に関してはとても多くの事業があるが、児童については「居場所」しかない。児童に関してももう少しきめ細かくてもよいのではないかと思う。この課題に対して、提言していくのもよいのではないか。

(議長) 学齢期については、放課後子ども教室、寺子屋、児童クラブぐらいではないか。これらは子どものためというよりも保護者のためという部分もあると思う。

(市) 児童クラブに関しては、元々厚労省所管の就労支援として開始したものである。ただ、子どもに対して目を向けなければ事業として立ち行かない部分もあるので、就労支援よりも子育て支援事業の色が強くなってきている。

(議長) 「課題」についてご意見はあるか。

(委員) 「地域で子どもを育てようという親」のような表現に変えた方がよいのではないか。

(議長) 続いて「4 モデル事業の実施」については、令和4年度事業について受講者の感想と評価・課題を追記した。何かご意見はあるか。特になければ、続いて「5 事業実施による成果・課題」についてご意見はあるか。

(委員) 循環型の家庭教育支援とあるが、「循環型」というのがよく分からない。「継続的」の方がよいのではないか。

(市) 学んだ側が、次は教える側になるということを繰り返すということで、循環型という表現を用いている。

(委員) 「発展的」でもよいのではないか。

(議長) 続いて、「6 今後の推進方策(提言)」についてご意見はあるか。

(市) 本市における課題に記載の無いものがある。これらは1、2ページの問題点に出てきていない。

(議長) 「2 地域で子どもを育てるための社会基盤と社会教育の役割」の中の「家庭」「学校」「地域」の中に入れるべきではないか。

「家庭」と「学校」の課題ではないか。

(委員) 家庭の問題で「不登校」が増えているということもある。親と離

	<p>れたくないとか、親が朝早く起きることができないということもある。それが習慣になって不登校になってしまうということがあ る。</p> <p>(議 長)「6 今後の推進方策(提言)」以降の内容については、次回会議 で引き続き検討したい。</p> <p>(市) 提言の具体的方策について、何かご意見があればメールで構わな いので、事務局へご連絡いただきたい。また、今期で提言をまと める方向で進めていたが、現状まとめきれていないので、もう1 年程引き続きご検討いただきたい。</p> <p>(委 員) 2ページの3と4の間に、どのような経緯で、コミセンを活用し た家庭教育支援のモデル事業を始めることになったのかを追加 していただきたい。</p> <p>(議 長) 本日の議題は以上となる。では、次回会議の日程について事務局 より説明をお願いしたい。</p> <p>(市) 次回、令和5年度第1回定例会を4月に行う予定である。</p> <p>① 24日(月)午後3時から ② 25日(火)午後3時から ③ 26日(水)午後3時から ④ 27日(木)午後3時から ⑤ 28日(金)午後3時から 以上の候補日から選んでいただきたい。</p> <p>(議 長) 全員出席できる28日(金)午後3時30分からとしてよいか。</p> <p>(委 員) 異議なし。</p> <p>以上で議事を終わる。 <閉会></p>
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和4年度第4回社会教育委員会議定例会(第32期)次第 ・ 第32期大和市社会教育委員名簿 ・ 令和4年度社会教育委員に関する研修会等 ・ 「家庭教育支援」に関する提言(素案) ・ 神奈川県におけるこれからの家庭教育支援のあり方について(答申)